



3. 鉄骨のさびに関係する事項

Q3-1：さびはどの程度まで吹付け施工上問題にならないのですか？

A：1. 鉄骨表面に黒皮が残り、さびが見られない場合

吹付け施工上全く問題ありません。

2. 鉄骨内部へさびが侵食しておらず、鉄骨の表面のみ微粒子状のさびが見られる「赤さび」発生の状態
吹付け施工上問題ありません。

3. 赤さび発生が激しく、浮きさびの発生有無を判断し難いような場合

鉄骨表面をブラッシングして吹付け施工するのが望ましいと考えられます。

Q3-2：吹付け施工後のさびの進捗状況は？

A：実際の鉄骨造建築物に見られる鋼材の腐食は、建築施工中に高湿度の一般大気にさらされている時に発生します。しかし、建物が竣工して空調を運転したり、相対湿度が70%以下に保持されていれば、竣工後は鋼材の腐食は進行しないと推定されます。

ただし、水廻りや建物の外周部あるいは高湿度となることが予想される建物や部位などでは、さび止め措置が必要と考えられます。

関連資料

日本建築学会：建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事

日本建築学会学術講演梗概集 昭和60年10月 3016(東海大会)

Q3-3：さび止めペイントの種類およびその有無によって、吹付けロックウールの付着性に影響が出るのですか？

A：さび止めペイントと吹付けロックウール(半乾式・湿式)の付着性については、平成2年10月の日本建築学会・中国大会にて発表されています。

半乾式吹付けロックウールの場合、さび止めペイントの種類に関わらず付着力試験で母材破壊を示すことが多いため、さび止めペイントの種類との関係はわからないとされています。しかし、湿式も半乾式もどちらもセメントをバインダーとする強アルカリ物質である為、吹付けロックウールを施工する鉄骨にはさび止めペイントの使用は避けるべきであると考えます。